

3つの声

2023.7.8

野田中学校には、「凡事徹底」というスローガンともいうべきものがある。これは、伝統にもなっており、生徒にも教員にも浸透している。学校生活の基盤をなすものである。加えて、今年度は新たに「声を届けよう」をスローガンとして掲げた。

この声には、3つある。一つは、授業中の声である。生徒の発表や話し合いでの声である。これが一番の課題である。声が小さい。自信もなさそうである。授業者の問いかけも一問一答式が多く、生徒が単語やキーワードを一言発して終わってしまう。

これでは、高校に進学して、他の中学校の生徒と一緒にになったときに、自分の考えや思いを話せるのだろうか心配になった。世の中に出ても、やっていけるのだろうか不安になる。授業で、もっと生徒に発表させる場が必要である。答えが一つに決まっているような質問ではなく、多様な考えが出るような発問が必要である。生徒が、自分の考えや意見を説明できるようにさせたい。単語ではなく、文で話すようにさせたい。これを授業の中でやっていくことで、少しずつ自信もついてくるだろう。そうすれば、声が大きくなっていくかもしれない。

2つめの声は、学級での話し合いや生徒会活動での声である。コロナ禍のため、生徒会活動も様々な制限があった。これからは、生徒が意見を出し合い、活発な生徒会活動にしていきたい。したがって、この声は、意見や要望などになる。早速、10月の文化祭に向けて、生徒会役員の生徒たちが、企画を考えてくれた。「声を届けようの会」である。今から楽しみである。

3つめの声は、歌声である。昨年度の文化祭は、コロナの状況を踏まえ、合唱コンクールのみとなった。各学級の歌声を聞き合い、改めてわかったことがある。やっぱり合唱はいい。歌には力がある。合唱コンクールには大きな意義があるということである。そこで、10月の合唱コンクールをピークとして、全校集会や卒業式などの機会に、ぜひ歌声を響かせたい。

最初は、「声を出そう」にした。まずは声を出すことである。だが、相手に届かなければ意味がない。届けるためには、声の大きさも必要だし、相手にわかってもらえるような言葉選びも必要になる。届けようと思えば、いろいろと考えるようになる。そこで「声を届けよう」とした。

各教科の授業での声が土台となるが、道徳の時間が、一つのポイントとなると考えている。道徳の時間は、学力差に関係なく、誰でもが参加しやすい時間である。意見や考えを出し合い、「考え、議論する道徳」をめざすことで、声を届ける経験ができればと思う。

私自身も、生徒や先生方に声を届けるために、どんな言葉を選ぶか。また、話し方や声のボリュームも考えなければならない。声を出すと届けるとでは、だいぶ違う。少しでも、生徒が変わってくれればと思う。